

二、總會前記

A、二、七、八臨時大會

昭和二年三月十八日を期して開始された、郵船司厨争議は、五旬に亘つてやうやく五月に解決をさけた。

それは諸君があまりにも明らかに知る通り、陰惨なる惨敗であつた。

かてて加へて、争議後に於ける會社の追撃は猛又烈で、同友會強制脱退、自治會強制加入、乗船の遅延準備不探川等々、人心の動搖につけ込んで、極度の強壓を加へたのであつた。

争議直後迄年死を誓つた同志は昨日十八人去り今日五十人を奪はれて、遂に同友會本支部合せて僅々數十人の正義の士を留むるに過ぎず、古城落月轉々感慨無量なるものがあつた。

同志よ！

當時の苦境は、到底筆舌に盡せなかつたであらう！

七月八日、遂に横濱在住の有志は一室に會して、臨時大會を開いた。

左に決定した三項を掲げる。

一、同友會館譲渡の件

九千五百圓で自治會に譲渡する事。

二、會長、支部長、常任書記辞任の件

井上會長、村松支部長、宗水、大塚書記辭任の件

可決

三、後任會長及支部長選定の件

かくて、さしもに花々しかつた郵司同友會十有八年の歴史は、痛ましくも此日を以て一段落を告げたのであつた。

後任會長は西島芳兵衛氏に陸衛方を一任し、直ちに横濱支部長に竹内氏を補任し尙本部書記は大塚啓

氏を再任し、最後に、

「吾が同友會は一度は倒れた。

されど、吾等は再び起たねばならぬ。再び同友會を盛り立てる迄、死を以て戦え」

と堅き誓ひを立したのである。

古き衣をかなくり棄てた日は、又實に再起の日でもあつた。

此れ同友會復活第一の宣言であらう。

B、三、八、二臨時大會

兩米一年、雨の日、風の日、雪の日、三百六十五日、馳けまわつた、説いた、船から船へ、咽がツブレる迄も。本部員も支部員も。

そして昭和三年八月には既に千五百の會員を奪還するこゝが出来た。

八月二日、輝かしき臨時大會は、神戸の本部樓上で開かれた。

一、久留弘三氏を會長に迎ふる事、を附隨し万橋一教久留氏の就任を希望した。同時に、

二、河上丈太郎、三輪壽社、西島芳兵衛の三氏を顧問に推薦し、万橋の承認を得たのであつた。